

「第12回パネルの会」のご報告

福島医学会シンポジウム
精神科医療21世紀シンポジウム in 福島 2011
同時開催：第12回パネルの会、第6回日本統合失調症学会市民公開講座

2011年11月3日（木・祝） 9:50～16:30
コラッセふくしま（福島市） 多目的ホール

『パネルの会とは…。』

こころの病を治したい方、そのご家族を支えている方、保健福祉や医療に携わっている方が、最新の精神医学や精神科医療を同じ目線で共に学びます。

例年ですと、福島県精神障がい者家族会連合会つばさ会「ばんだいのつどい」の公開講座として開催されております『パネルの会』ですが、今年度は震災の影響もあり、「ばんだいのつどい」とは別開催となりました。

その様な中、『第12回パネルの会』は、福島医学会シンポジウム、精神科医療21世紀シンポジウム in 福島 2011、第6回日本統合失調症学会市民公開講座と同時開催されることとなり、当日は335名の方にご来場いただきました。

その様子をご報告させていただきます。

『統合失調症とリカバリー ～フクシマの復興～』

パネルの会会長 丹羽真一先生の開会のご挨拶により、プログラムがスタートしました。



特別講演として初めにお話をいただきましたのは、国立精神・神経医療研究センターの伊藤順一郎先生です。『震災復興と地域精神科保険医療福祉の模索』という演題でご講演いただきました。

次に、アメリカの Professor of Psychiatry, UCLA School of Medicine から Robert. Liberman, MD.

をお招きし、『精神障害とリカバリー』という演題でご講演いただきました。



お二人の先生の貴重なお話を聞くために、会場は満席でした。椅子を増やそうとしても設置するスペースがなくなり、立ってご覧いただく方も多くいらっしゃいました。

全てのプログラムの終了後には、Liberman 先生のサイン会が



開かれ、その会場にも長蛇の列ができました。先生はお一人おひとりに丁寧
にメッセージとサインをお書きになり、握手や記念撮影もされ、優しい
お人柄に皆さん大感激のご様子でした。



さて、お二人の先生のご講演の後は、いよいよ『第12回パネルの会』
です。

今回の「パネルの会」は、『Robert. Liberman, MD.、伊藤順一郎先生と当事者、家族、支援者を交えて…。』という題目でした。

Liberman 先生、伊藤順一郎先生、そして質問者の引地はる奈様、今野忠八様、西川しのぶ様とのパネルディスカッションです。

丹羽真一先生の進行と松本純弥先生(高田厚生病院)の司会により、会が始まりました。



引地はる奈様は、Liberman 先生より、「あなたの回復を支えてくれた人は誰ですか？」というご質問をいただきました。それに対して「家族や仲間など、これまで自分の回復を支えてくれた、たくさんの人たちの存在を改めて感じ、感謝の気持ちがあふれました。そして、今度は自分も、仲間の回復を支えられる人になりたい!! という決意を新たにしました。」と、今のお気持ちをお話してくださいました。

今野忠八様は、伊藤順一郎先生へ『ACT*』について、その想いをお話いただきました。「家族としては、何よりも『親亡き後』の事が重大関心事であり、『ACT』の理念が広がり、『親有る中』にこの問題が解決できたらどんなに素晴らしい事か。また、退院後の受け皿としても『ACT』の実現を切に願っております。」との期待の声をお聴かせいただきました。また、西川しのぶ様は、支援者のお立場から、伊藤順一郎先生にご質問されました。

パネリストのお話は、それぞれ皆様の想いが深く込められた大変尊いもので、パネリスト、そして会場の皆様と共有したひと時は、とても有意義な時間となりました。

ご来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。

尚、会場からも多くの質問をお寄せいただきました。

質問の回答をまとめ、後日ホームページに掲載する予定であります。もうしばらくお待ちください。

最後に、第6回日本統合失調症学会市民公開講座といたしまして、「統合失調症の早期介入と家族支援の具体化に向けて」家族支援の立場から という題目で、会が進められました。

この市民公開講座は、本来、昨年3月に行われる予定でしたが、震災に見舞われた事で一時開催が危ぶまれました。無事にこの日を迎えられ、活発に会が進行されました事は大変喜ばしい限りでした。

丹羽真一先生と横山昇先生(県立矢吹病院院長)の司会により会が進行されました。

パネリストは、中村ユキ様(DVDでの出演)、吉原秀一様、白石弘巳先生(東洋大学教授)、大谷廉様でした。

市民公開講座は、文字通り誰もが参加できる開かれた講座です。同じ地域に住む人たちが、こころの病について理解を深め合い、互いに認め合いながら一人ひとりが輝ける社会になるよう願うばかりです。

一日を通して、どの時間も大変内容の濃いものとなりました。

そして、多くの人たちの想いを共有できた、大変有意義な一日になったのではないかと思います。

今後も、共に学び合える時間を作っていけるよう、皆様のお力をお借りしながら、より努力を重ねてまいりたいと思います。

どうぞ、よろしく願いいたします。

* **ACT (Assertive Community Treatment)** : 重い精神障害を抱えた人が住み慣れた場所で安心して暮らしていけるように、様々な職種の専門家から構成されるチームが支援を提供するプログラムで、「包括型地域生活支援プログラム」とも呼んでいる。